

バロー、可児に精肉加工場

3カ年経営計画策定

バローは8日、2016年3月期からの中期3カ年経営計画を発表した。ことし10月1日付で持株会社体制に移行。スーパーマーケット既存店強化や近年整備したインフラの稼働率向上などで、売上	高に相当する営業収益の最終年度目標を5500億円と掲げた。インフラ整備では、可児市の「可児ドライ物流センター」隣地にことし9月、精肉加工場の「可児プロセスセンター」を開設。精肉	加工では5拠点目で、東濃、中濃地域の計63店舗に供給。これにより、スーパーマーケットバロー全店を網羅する精肉の集中加工体制が整い、技術や鮮度を一律に保ち、販売力の強化につなげる。	また、鮮魚の加工の知識や技術習得などを目的とした、宿泊も可能な研修センターの建設を進める。本年度は同センター近くでの用地の確保を予定している。
--	--	---	---